

瀬尾久仁 & 加藤真一郎

クロード・ドビュッシーの肖像

ピアノデュオ・リサイタル

2012

2012.10.23

TUE

東京文化会館
小ホール



© Marco Borggreve

PORTRAIT OF CLAUDE DEBUSSY

PIANO DUO RECITAL 2012

KUNI SEO AND SHINICHIRO KATO

TUE, 23 OCT. 7PM, AT TOKYO BUNKA KAIKAN RECITAL HALL

プログラム

ドビュッシー：交響曲／小組曲／牧神の午後への前奏曲／6つの古代のエピグラフ／白と黒で
小林寛明：Assemblage (瀬尾久仁 & 加藤真一郎ピアノデュオ委嘱作品・世界初演)

ピアノデュオ・リサイタル
瀬尾久仁 & 加藤真一郎 2012
クロード・ドビュッシーの肖像
2012年10月23日(火) 19時開演(18時半開場)
東京文化会館小ホール

© Marco Borggreve

PROGRAM

クロード・ドビュッシー (1862-1918) :

交響曲 (1881) 【連弾】

小組曲 (1889) 【連弾】

牧神の午後への前奏曲 (1894) 【作曲者自編による2台ピアノ版】

6つの古代のエピグラフ (1914) 【連弾】

白と黒で (1915) 【2台ピアノ】

小林寛明 (1973-) :

Assemblage (2012) 【連弾】

★2012瀬尾久仁 & 加藤真一郎ピアノデュオ委嘱作品・世界初演

MESSAGE

2012年は、クロード・ドビュッシー (1862-1918) の生誕150年にあたります。10歳でパリ高等音楽院のピアノ科に入学した彼にとって、ピアノ・ソロだけでなく、「ピアノ・デュオ」の作曲も生涯にわたって重要な位置を占めていたのです。それは、ピアノ・デュオが最小限の楽器、最小限の人数による、「魅力的なオーケストラ」だったからではないでしょうか。今回、ドビュッシーのピアノ・デュオの主要曲が一挙に紹介されるのは、またとない、得がたい機会となります。今回取り上げられる作品のうち、十代後半に書かれた「交響曲」(1882)、人気作品「小組曲」(1889)、20世紀の幕を開けたといわれる「牧神の午後への前奏曲」(1894)の3曲は、なんとチャイコフスキーの悲愴交響曲や「くるみ割り人形」、ドヴォルザークの新世界交響曲と同じ頃の作品です。ドビュッシーがいかに時代を先取りしていたか、彼が「印象派」などではなく、いかに20世紀音楽に影響を与えた存在だったか。彼のピアノ音楽の終着点ともいえる「白と黒」、さらには今回世界初演する現代日本の作曲家・小林寛明の新作と合わせ、ドビュッシーの真価に迫ります。

野本由紀夫 (玉川大学芸術学部教授/元NHK「名曲探偵アマデウス」監修者)

INFORMATION

○入場料：一般3,500円 学生1,500円 (学生券は東京コンサーツのみで取り扱い)

○主催：瀬尾久仁 & 加藤真一郎ピアノデュオ

○前売り：東京文化会館チケットサービス tel.03-5815-5452、東京コンサーツ tel.03-3226-9755

○お問い合わせ・予約：東京コンサーツ 〒160-0005 東京都新宿区愛住町23番地ベルックス新宿II・6F
tel.03-3226-9755 / fax.03-3226-9882 <http://www.tokyo-concerts.co.jp>
(東京コンサーツのホームページで予約をして、セブン・イレブンで支払い、受け取りができます。)

○東京文化会館：〒110-8716東京都台東区上野公園5-45 JR「上野」駅公園口

瀬尾久仁 & 加藤真一郎ピアノデュオ

桐朋学園大学ピアノ科に学ぶ瀬尾久仁と、作曲科に学ぶ加藤真一郎が在学中の1998年にピアノデュオを結成。ドイツのロストック音楽大学ピアノデュオ科、ミュンヘン音楽大学マイスター課程ピアノデュオ科を修了。2008年、ピアノデュオとして初めて文化庁新進芸術家海外留学制度研修員に選ばれ、引き続き、A・コンタススキー教授のもとで研鑽を積む。国際コンクールの中でも最難関とされているマレイ・ドラノフ国際2台ピアノコンクールで第1位を受賞、日本人デュオ初の快挙を果たす(2005年)。他にも、国際ピアノデュオコンクール(ポーランド)第1位及びショパン賞受賞のほか、日本・海外の主要コンクールで優れた成績を収めている。北ドイツ放送(NDR)、バイエルン放送(BR)、NHK-FM「ベストオブクラシック」、NHK「名曲探偵アマデウス」等に出演。バーンスタイン作品を演奏したNHK・BSテレビ番組「クラシック倶楽部」は、たびたび再放送されている。留学からの帰国直後の2009年8月、サントリー芸術財団主催サマーフェスティバルにおいて、沼尻竜典(指揮)、東京都交響楽団とともにペーター・エトヴェシュ「2台ピアノとオーケストラのための協奏曲」を日本初演し、高い評価を得た。また、ブーランク「2台のピアノと管弦楽のための協奏曲」を、2011年、円光寺雅彦指揮、東京フィルハーモニー交響楽団と共演した他(文化庁主催「明日を担う音楽家たち」)、2012年8月井上道義指揮による京都市交響楽団定期演奏会でも演奏する。2010年には国際交流基金の助成を受け、アメリカ・カリフォルニア公演を行い、邦人作曲家によるピアノデュオ作品を多数紹介した。これまでに野本由紀夫、藤井一興、ハンス＝ペーター・フォルカー・ステンツル、ヤアラ・タール & アンドレアス・グロートホイゼン、アルフォンス・コンタススキーの各氏に師事。

<http://seokato.com/>